

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
2月14日発行 NO.34
文責 出崎 友英

凡事徹底

「凡事徹底」とは、「あたりまえのことを、徹底してやり抜く」ということです。「凡事徹底」の大切さについて、あるエピソードを紹介します。

アメリカのジョージ・ケリング博士が提唱した「割れ窓理論」というものがあります。

一枚の窓ガラスにひびが入ったり割れたりしているのを、そのまま放置しておく、別の窓ガラスも次々に割られていき、だんだんと周辺が荒廃していく現象が見られることから、小さな問題や無秩序な状況を放置すると、それが悪化の連鎖を引き起こし、深刻な問題へとつながっていくという社会学の理論です。

この理論を実証した例として、ニューヨークの取組が有名です。1990年代のニューヨークは治安が非常に悪く、重大犯罪が多発していました。そんな中で新たに就任したジュリアーノ市長は、落書きや駐車違反、無賃乗車、万引きなどの軽犯罪の取り締まりを徹底するとともに、街の環境美化に重点的に取り組んだのです。重大な犯罪に比べれば「これくらいいいだろう」「たいしたことじゃない」と思われていた小さな犯罪をまず無くして、街を美しくしていくことで、街全体に落ち着きが生まれ、ニューヨークは重大な犯罪の発生率も劇的に少なくなったのです。➤

小さなあたりまえのことをおろそかにしていると、「他の人もやっているから、これくらい別にいいだろう。」という心理が働き、それがだんだんと広がっていくのです。

逆に言えば、小さなことをおろそかにせず、みんなで徹底して取り組んでいくことで、集団の質が向上し、みんなが落ち着いて頑張り、成長することができるということだと思ふのです。



日常生活の中で、あたりまえのことがきちんできているか、自分自身を振り返ってみましょう。

- 「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」のあいさつがきちんとできていますか？
- 掃除の時間はまじめに無言で取り組んでいますか？
- 正しい服装が、常にできていますか？
- 朝、遅刻しないで登校することはできていますか？

これらは、意識をして「やろう」という気持ちがあればできることで、特別な才能や能力は必要ありません。

だから「凡事(あたりまえのこと)」なのです。

それをみんなで意識して取り組んでいくことで、集団の中に規律や落ち着きが生まれ、一人一人の力も向上していくのだと思います。凡事徹底にみんなで取り組んで一人一人のさらなる成長を目指しましょう。

授業参観・懇談会がありました。

2月13日(木)に、1、2年生の授業参観と学級懇談会を行いました。何かとご多用な時期かと思いますが、たくさんの方々に来校いただきました。授業での子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。それぞれの授業で、グループで話し合ったり、自分の考えを周りに伝えたりする姿などがあって、とても楽しそうに活動していました。来校いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



◆お知らせです。

- 2月9日(日)に開催された「都市対抗熊日駅伝」の熊本市チームのメンバーとして、本校の選手が出場しました。1区「中学1年女子区間」を走った〇〇〇〇さんは、見事区間賞を獲得しました。4区「女子フリー区間」を走った2年〇〇〇〇さんは、高校生や大学生、実業団の選手と競い合い、トップと一秒差で次のランナーにタスキを渡しました。また、1年〇〇〇〇さんは、開会式での優勝旗返還と選手代表宣誓の大役を立派に果たし、それぞれ熊本市チームの優勝に貢献しました。3人の皆さん、そして熊本市チームの皆さん、優勝おめでとうございます。
- 2月12日(水)に「いじめ防止等対策委員会」を行いました。関係の先生方とスクールカウンセラーの宮地先生に出席いただき、本校におけるいじめの状況や「心のアンケート」の結果などをもとに、いじめの早期発見や対応についての課題や改善点を話し合いました。今後も学校全体でいじめの防止と早期対応に取り組んでいきます。



平凡なことを毎日平凡な気持ちで実行することが、すなわち非凡なのである。 「先生のこぼれ集」より